

ヤギと学ぶ学校

ただの郷学園
 三条市立笹岡小学校
 校長 唐沢 実

1 はじめに



「私は笹岡小の卒業生です。今は東京にいて、お盆の里帰りに寄ってみました。笹岡小のホームページを拝見したらまだヤギを飼っているというのを見つけて、懐かしくなってやってきました。私が小学生時代にヤギを飼っていたと話しても妻は信じてくれなくて、生まれた子と一緒に3人でやってきました。」

平成10年から続いている笹岡小のヤギの飼育活動。私が出会った卒業生のように、母校への愛着を抱く者もきっと多いのだろうと想像できる。

20年以上の間、その血をつなぎ続けている笹岡小のヤギの飼育活動について紹介する。「ヤギと学ぶ学校」として、価値ある体験活動を教育活動の中核に位置付けて、より確かな学びにしていこうとした実践記録である。

2 活動の実際

(1) 一年間の流れ(令和元年～2年)

月	ヤギの暮らし	2年生ならびに全校児童の関わり	備考
2 /27	○出産 午後1時に発見	<ul style="list-style-type: none"> その日のヤギ当番児童が、子ヤギが産み落とされているのを発見する。 全校に知らせ、みんながヤギ小屋に集まる。 	<ul style="list-style-type: none"> 予定日より早かったため、準備ができておらず、2頭とも低体温の仮死状態で発見。 今井さんに連絡し指示を仰ぐ。 職員による懸命な蘇生活動。お湯に入れ、体を拭き続け、初乳を与え、白熱灯で温める。 子ヤギは、夕方に立ち上がる。母子ともに健康。
		<ul style="list-style-type: none"> ここ数年、子どもたちは、出産の瞬間に立ち会うことができていないが、職員の懸命な蘇生、目を開けか細い声を上げ生きようとする子ヤギの様子、胎盤の発見、子ヤギをなめて心配する母ヤギの様子から、命の誕生の尊厳にふれる。 翌日に、子ヤギが立ち上がる様子を職員が撮ったビデオで視聴。 感染症拡大防止のため、翌々日から休校措置となる。 	
3月	○休校	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが子ヤギと関わったのは2日間のみ。 学校再開は、3/23 終業式。その後学年末休業となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生まれた子ヤギと関わる「黄金の一个月」を奪われてしまう。残念。

4月	○親子3頭での暮らし	【常時世話活動】 ・清掃の時間に、全校縦割り班による小屋掃除を行う。	・全校児童が飼育活動に関わるのが笹岡小の特色である。6年間続く世話活動となる。
		・高学年が下級生をリードして世話の仕方を伝授する。 【2年生】 ・生活科『ヤギとなかよし』の学習で、1年間のヤギとの関わりの中で学ぶ。	・中には苦手な子もいるが、自分ができることに取り組んでいる。 ・例年であれば、3月に2年生から1年生への引継ぎを行うが、今年度はできないままのスタート。
		・朝の健康観察とエサやりが2年生の常時活動となる。	
		(2年生の観察記録)	(2年生の観察記録)
		ヤギは食いしん坊です。食べ過ぎです。ヤギは、満腹のときははないのかな？	ヤギが一番好きな食べ物は、バナナの皮です。次はリンゴの皮、キャベツ、そして干し草の順です。
5月	○名前付け	・2年生が全校に呼び掛けて、子ヤギに名前を付ける。 ・投票の結果、母ヤギ『さくら』が生んだ双子男子の名前は、『あかいくん』『あおいくん』に決定。 ・全校にお知らせ放送。	・2年生は、自分自身の名前がどんな願いが込められて付いたのか、親に聞き取る。そして子どもたちは、子ヤギの親になる。
		・2年生は、『まち探検』で、今井さんの牧場を訪問する。 ・たくさんのヤギに驚き、乳絞り体験に挑戦した。	・笹岡で飼育していた親ヤギを紹介される。代々続いていることを実感した子どもたち。
○『まち探検』～今井牧場へ 		(2年生の今井さんへの質問)	今井さんに質問「私はヤギが怖いです。どうしたら仲良くなりますか？」→今井さんの答え「触れなくてもいいんだよ。毎日エサをあげてごらん。だんだんに仲良くなれるよ」

6 ／3	○卒業式 母『さくら』と 『あおいくん』 とお別れ	<ul style="list-style-type: none"> ・生まれた子ヤギが十分に育ったこの時期、母ヤギとお別れ式を行う。 ・前の年に母ヤギを飼育してきた3年生の司会で行う。 <p>(2年生の思い出発表)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・例年であれば全校で行うお別れ会。コロナ禍の今年は1～3年生で行う。
		<p>2年生になってヤギを見たらすごく大きくなってびっくりしました。生まれたときは死にそうだったのに、元気に育ってくれてうれしいです。あおいくんとたくさん遊んで仲良くなりました。新しいところでも元気に過ごしてください。</p>	
○入学式 残る『あかいくん』のお嫁さんとの出会い。		お嫁さんには『あかいくん』にはない「おっばい」がある。触るとポニョポニョしているから、名前は『ぼんちゃん』にしよう。	
7月	○夫婦2頭での暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生が、「1年生にヤギとなかよくするやり方を教えてあげよう」と、ヤギとの関わり方を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「教える」ことで、これまでの経験から気付いたことを確かにする。
		<ul style="list-style-type: none"> ・この日から、朝の健康観察は、1・2年生のペアで行うことになる。 	
8月	○子どもたちがいない夏休み	<ul style="list-style-type: none"> ・笹岡小では、土日祝日ならびに長期休業中のヤギのお世話は、保護者からやっていただく。年末年始とGWは職員割り当てにしている。 ・学年割り当て、地区割り当てで不公平がないように当番を割り振る。 ・1家庭、年間3回程度の割り当て。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方からの理解を得て、学校がお休みの間もお世話活動が継続できる。 ・地域の方から野菜くずや枝豆の殻、乾燥させたサツマイモつるなど、日頃からいただいている。 ・給食がある日は、給食調理場からたくさんの野菜をいただいている。
			
10 ／2	○獣医さんによる健康診断	<ul style="list-style-type: none"> ・年に1回、獣医さんをお招きしてのヤギの健康診断を行う。 ・肛門で体温を計ったり、聴診器を当て 	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなのお世話がいいのでとっても健康です。」という評価をいた



○芝生の上で



で心臓の鼓動を聞いたりする。
 ・「ヤギは耳がいいのかな?」「どうして高いところが好きなの?」と、これまでの関りから生まれた疑問を獣医さんにぶつける。

・当校のグラウンドに芝生が敷かれた。
 ・「ヤギも、草の上はきつとうれしいはず」と、グラウンドで一緒に遊ぶ。

だいて、大満足の子どもたち。

・芝生という環境はヤギにとってどうなのでしょう?
 ・刈り取った芝はエサになるのか、来年度に試してみることにする。

11月

○他校児童との交流会



・しただの郷学園では学年ごとに他校小学校との交流会を設定している。
 ・2年生は、「自慢のヤギ」を紹介する。

「ヤギの前を走らないで。走る人を追いかけるから」
 「野菜は小さく干切って。そうすると食べやすくなるよ」

・下田の他校の2年生もヤギとの交流を楽しんでくれている。

・学区の保育園児もヤギを見に散歩に来てくれる。

11月/25

○『あかいくん』の卒業



・母ヤギの懐妊が確かめられたこの時期、オスヤギとのお別れ会をする。
 (2年生思い出発表)

あかいくんへ。
 8か月、一緒に遊んでくれてありがとう。いい思い出ができました。ポンちゃんのことはぼくたちが育てます。生まれてくる赤ちゃんのことも心配しないでください。元気でね。

・出会いと別れの繰り返しである。

1月

○命の授業



・ヤギの出産を控えたこの時期、今井さんをお招きして、『命の授業』を行う。
 ・出産を控えて準備することや自分たちができることを聞かせていただく。
 ・あわせて、ヤギの命を、子どもたちの成長と重ねてお話していただく。

・2年生生活科では、『大きくなったぼくわたし』の学習がある。ヤギの命の誕生を、自分の命と重ねて、多くの人からの支えがあって今の自分があることを学ぶ。

(2) 総合学習での取組

3年生 「ヤギとイチヨウに学ぼう 私たちの笹岡」(伝統)



ヤギと人の暮らしとの関わりについて調べる。外部講師に地域おこし協力隊の渡辺シェフをお招きし、絞ったヤギ乳でジェラートを作って食べる。人の生活に役に立つ存在としてのヤギ。酪農としてのヤギのとらえ直しを行う。

さらに、学区にある畜産試験場での調べ活動を通して、かつて笹岡地区では酪農が生業としてあった伝統に学びたい。

4年生 「めざせエコクラス認定」 (環境)



ヤギの飼育を野菜の栽培につなげ、循環型農業を学ぶ。ヤギの糞を活用して落ち葉堆肥を作る。できた堆肥を畑に漉き込み、全校で栽培するサツマイモの収穫につなげる。学区で有機農法に取り組んでいる方の農家の仕事を調べ、環境にやさしい社会について学ぶ。

5年生 「下田の食について 考えよう」(食育)



ヤギ糞堆肥を漉き込んだサツマイモ畑。サツマイモの収穫から、下田の特産や伝統料理を調べ、地域の方に習いながら実際に料理を作る。下田の環境を生かした産業について食を通して学ぶ。

6年生 「自分の夢や生き方を 探ろう」(キャリア)



地域で働く方の生き方にふれたり、実際に仕事を体験させていただいたりする中で、将来の自分に思いを向ける。ふるさと下田に生きる人とのかかわりの中でふるさとへの愛着を高めていく。



3 成果と課題

(1) 笹岡小だから学べる「ヤギと学ぶ学校」

「ヤギを学ぶ」：ヤギを学習対象としてヤギそのものを学習する。

「ヤギで学ぶ」：ヤギを教材としてヤギを通して〇〇を学習する。

「ヤギと学ぶ」：ヤギと一緒に生活がある。ヤギと一緒に過ごす中で学ぶことがある。6年間の小学校生活の中に常にヤギがいる笹岡小学校は、やはり「ヤギと学ぶ学校」である。

【今井さんが子どもたちに語られること】

○ヤギの前でけんかはしない。

○ヤギの前で「オレがオレが」とわがままをしない。

○ヤギは人間の言葉が分からない。だから、みんなが

『メイ語』を理解してやらなければいけない。

～みんなも将来世界で活躍する。外国語が上手に話せなくても気持ちがあれば通じる。

ヤギと上手に付き合うことができれば、自分とは違う人も相手のことを考えて付き合うことができる。

○ヤギとお話するときは、ひざを曲げて目の高さを合わせてする。

○ヤギが怖かったり苦手だったりする子も、ヤギのそばにいてあげられるだけでいい。

○笹岡小で過ごしたヤギは、人慣れしていて他所へ行っても飼いやすい。それは優しい笹岡小の子どもたちにいつも囲まれて過ごしているから。



子どもたちにヤギとの関わり方を語られる今井さん

(2) 教科の学習とつないでより確かな学びに

ヤギの生命の誕生を理科や保健体育の学習とつないで…。

一生懸命に行う小屋清掃を道徳（勤労奉仕）の学習とつないで…。

ヤギと関わる総合学習の追求を理科や社会の学習とつないで…。

ヤギと関わる体験活動はそれ自体が尊い。さらに、その体験活動を様々な教科の学習とつないでいくことで、より深く確かな学びになる。実践を踏まえて計画を加筆修正し、ヤギを中核とした教育課程の編成を充実させていく。

(3) 保護者・地域の方々のご支援に応える

保護者と地域の方々の理解と協力があつてここまで続けてきたヤギの教育活動である。20年という年月は、笹岡小でヤギの飼育を体験した子が親となる歴史がそこにある。半面、絶えずに飼育する作業の困難さもある。年々児童数が減少し、負担も重くなってきている現実もある。実際に飼育活動に消極的な声も聞こえ始めている。そんな困難さや大変さを乗り越えるのは子どもたちの姿しかない。ヤギと学ぶ子どもたちの充実感や満足感が笑顔となって表れたり、心の育ちにつながったりしていることが伝わってこそ、保護者や地域の方々の信頼を得た教育活動となることを信じている。



* ヤギと学ぶ笹岡小学校の教育活動は、当校ホームページの中の『やぎブログ』で紹介しています。

